

広報 いんざい

合併特別号

■発行 印西市 ■編集 秘書広報課広報広聴班
■〒270-1396 千葉県印西市大森2364-2
☎0476-425111(代) FAX0476-427242
■ホームページアドレス <http://www.city.inzai.chiba.jp/>
■電子メールアドレス home@ml.city.inzai.chiba.jp

3月23日(火) 新「印西市」が誕生

日本一住みやすいまちに向けて

市長あいさつ



現在、地方自治体を取り巻く環境は、地方分権の推進や少子高齢化社会の到来などの変化が現れています。そのような中で、この合併はそれらに対応するため基礎自治体としての体力をつける一つの施策でもあります。

印西市・印旛村・本埜村の1市2村の合併は、昨年来から協議を進め、千葉県議会での承認をはじめ官報への告示などすべての手続きが完了し、3月23日から新印西市としての第一歩を踏み出すこととなりました。

合併の協議では、合併協議会および各議会議員のみなさん、そして、1市2村にお住まいのみなさんの大いなるご理解と協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

合併の協議を始めて以来、みなさんの新市に対します思いや期待を数多く伺ってきました。わたしはこの思いや期待に応えなければならぬと思うとともに、その責務の重大さともやうがいを感じています。

合併後の行政運営は、新印西市は将来大きく変貌を遂げる可能性を秘めた魅力ある地域であるとの確信に基づき、市民の福祉の向上を最優先に考慮し行財政の効率化などに取り組みます。

そして、千葉ニュータウンをはじめ、豊かな自然、歴史ある風土に恵まれた伝統文化など地域資源を最大限活用し、新市の将来像である「ひと まち 自然 活気と希望あふれる 北総の中核都市」を目指して、新たなまちづくりの力を傾注します。

なお、合併期日まで残すところ2週間ほどとなりましたが、万全の準備を進めるとともに、合併後には早期に新市が一体感を持ち、誇りある新たな印西市を市民のみなさんと共に築きあげたいと考えています。

合併決定までの経過

去る1月12日に印西市、印旛村、本埜村から千葉県知事へ提出された合併の申請に基づき、2月19日に1市2村の合併協議案が千葉県議会に議案として提出され、賛成多数で可決されました。

これを受けて2月22日に千葉県庁の知事応接室で、印西市議会議員、印旛村議会議員、本埜村議会議員とともに、印西市選出の瀧田県議および印

旛村選出の大野県議の立ち会いのもと、森田健作千葉県知事から山崎印西市長、佐藤印旛村長、五十嵐本埜村長に「市町村の廃置分合(合併)」の決定書」が手渡されました。

決定書を手渡した後、森田知事は「新印西市にできるだけの支援を行いたい」と合併後の当地域への期待と協力を約束。これを受け、山崎印西市長は「1市2村は、旧来から結びつきが強く、千葉ニュータウンという素晴らしい財産も共有している。合併を機に北総地域の中核都市として住民福祉の向上に全力を尽くしたい」と決意を述べました。

また、合併決定書交付後、同日付けで千葉県知事から総務大臣へ合併の届出がなされ、

これを受けて、3月5日付けで総務大臣による官報告示が行われました。

これにより法律に基づくすべての手続きが完了し、平成22年3月23日の新「印西市」が誕生することが正式に決定しました。

今後の予定

法律に基づくすべての手続きが終了したことから、今後は、新市発足に向け、新市の予算、条例などの整備について議会に議案として提出する

とともに、併せて電算システムの整備を図るなど、3月23日の新市発足への移行が速やかに行えるように詳細な準備を進めていきます。

なお、合併の期日である3月23日(火)は、午前8時20分から、市役所正面玄関で新「印西市」本庁舎開所式を、現印旛村役場および本埜村役場の庁舎で印旛支所、本埜支所の開所式を行う予定です。



新・印西市誕生に向けて知事と固く握手を交わす1市2村の首長

新「印西市」



▶新・印西市誕生後に本庁舎になる印西市役所(上)と支所になる印旛村役場(下段右)と本埜村役場(下段左)



▲交付された合併決定書

印西町から印西市へ そして、北総の中核都市「新印西市」へ

▶印西町誕生の瞬間（12月1日）



合併後、昭和39年まで使われていた役場庁舎（旧大森町役場）

昭和29年（1954）印西町誕生

昭和29年12月1日、前年に施行された町村合併促進法により、木下町、大森町、船穂村、永治村の一部が合併し、人口約18,000人、面積53.51km²の印西町が誕生しました。新町名は、住民から公募し、「印西町」に決定されました。印西町が新町名として選ばれたのは、この地区が印旛郡の西部に当たることから、従来より印西地方と呼ばれ、それが一般に親しみ深い名称であった関係もあり、公募の結果も印西町を希望するものが最も多かったためです。昭和30年代中頃までは、広大な山林・原野が残されていましたが、昭和41年、千葉県によって首都圏の宅地需要の増加に対応するために、千葉ニュータウン計画が立てられました。

平成8年（1996）印西市誕生

4月1日に市制施行。県内で31番目、全国で666番目の市になりました。

市制施行を記念した行事も行われ、6月には「NHKのど自慢」、11月には一般公募の合唱団によるベートーヴェンの交響曲第9番の演奏会が開かれました（ともに東京電機大学福田ホール）。

この年には原小学校の開校、牧の原給食センターの新設、フレンドリープラザ、サザンプラザの2館のコミュニティセンターが開館しています。



開市式（4月1日）



▲第9演奏会（11月24日）

▶「10周年を契機とし、安心・安全・活力のあるまちづくりに取り組みたい」と抱負を述べる山崎市長（11月18日）



多くの市政功労表彰者・来賓を迎え記念式典は執り行われました。

平成18年（2006）市制施行10周年

11月18日に市制施行10周年を記念する式典が文化ホールで盛大に執り行われました。市政功労表彰者をはじめ多くの来賓のみなさんが出席する中、木下小学校と大森小学校の児童による合奏でオープニング。式典後、東京電機大学学長の原島文雄氏による記念講演や「インターナショナル・ショパンマイスターピアニステン」の資格を持つ中込多実子さんのピアノコンサートなどが文化ホールで行われました。この年には中央駅前子育て支援センター、小林子育て支援センターのほかにも地域経済の活性化を図るための施設として、いんざい産学連携センターが開館しました。

平成21年（2009）印西市・印旛村・本埜村合併協議会を設置

新合併特例法に基づき千葉縣市町村合併推進構想が平成18年12月28日に策定され、印西市、白井市、印旛村および本埜村の2市2村の組み合わせが提示されました。その後、平成20年9月22日に千葉県の呼びかけにより、千葉縣市町村合併推進構想の組み合わせである2市2村首長会議を開催しましたが、白井市が前回の住民投票の結果と平成20年11月の市長選挙を理由に、この協議に参加しない旨を表明。平成20年10月に印西市、印旛村および本埜村の1市2村の首長会議を開催し、新合併特

例法の期限である平成22年3月末までの合併を目指し話し合いを進めていくことを合意しました。同月24日に印西市・印旛村・本埜村合併問題懇談会を設置し、4回の会議を重ね、法定協議会設置のための規約、予算について協議を行いました。翌年1月9日には、1市2村において、臨時議会を開催し、合併協議会の設置に関する協議の議案、負担金などを計上した補正予算が可決。同日、1市2村の首長会議が開催され印西市・印旛村・本埜村合併協議会が設置されました。



第1回印西市・印旛村・本埜村合併協議会（2月19日）

平成22年2月（2010）合併決定「新印西市」へ

▶森田知事（最左）に合併申請書を手渡す山崎印西市長（左から二人目）、佐藤印旛村長、小川本埜村長職務代理者（1月12日）



▶森田知事（本名鈴木栄治）に手渡された合併（廃置分合）の申請書



昨年1月に法定協議会設置後、7月までに10回におよぶ協議会を開催。その結果、合併協定項目に関するすべての協議が整い、同9月に各市村議会で合併関連議案を可決。平成22年1月12日に千葉県知事に合併の申請を行い、2月19日に千葉県定例議会で議決。その後、22日に千葉県庁の知事応接室で、森田健作千葉県知事から山崎印西市長、佐藤印旛村長、五十嵐本埜村長に「市町村の廃置分合（合併）の決定書」が手渡されました。同日、千葉県知事から総務大臣へ合併の届出がなされました。